

良奈 ソール グラン

# 独自技術のがん治療開始

# 体の負担も軽減



樹状細胞を培養加工している様子 (グランソール奈良提供)

再生医療の「う」が「り」になり、奈良市高田野松「人全後相治療」「取」井の医療施設「ア」の技術を開発して「樹

状細胞(ペプチドワクチン治療)を開始した。同治療は、免疫システムで司令塔の役割を果たす樹状細胞の機能を強化したもので、採血して取り出した樹状細胞に、人工合成したがんの目印(がんペプチド)を学習させる。この樹状細胞を体内に戻すことで、免疫細胞ががんの情報を伝え、がん細胞を攻撃させる。

従来の、多くの医療では、ほとんどのがんが持つがん抗原「WT1

ペプチド」を使った治療の臨床試験が実施されてきたが、同抗原は「HLA(主要組織適合抗原)」と呼ばれる血液型の一種が一致しなければならず、限られた人しか治療ができなかった。

また樹状細胞の必要数を増やすために大量の血液がいるため、体への負担が大きい体外循環をしなければならなかった。

同施設は、約100種類のWT1ペプチドカクテルを採り出し、ほとんどすべてのHLA型に対応できるようにした。

樹状細胞の培養加工も成功、患者からの採血は約100ccで済ませ、ほとんど体外の培養加工で済ませることが可能になった。

樹状細胞の技術により、樹状細胞の効率の良い培養加工にも成功、患者からの採血は約100ccで済ませ、ほとんど体外の培養加工で済ませることが可能になった。

注打費は従来の名目だが、ほとんどの場合、対応するところその治療を受ける。

注打費は従来の名目だが、ほとんどの場合、対応するところその治療を受ける。注打費は従来の名目だが、ほとんどの場合、対応するところその治療を受ける。